

心のこもった技術で 医療の質、向上を。

初期 臨床研修 プログラムの 特徴

基本理念：すべての研修医が確かな知識と医療技術を礎に成長を続け、

研修希望に応じた
スペシャルコース
を研修医1人に1
コースずつ準備し
ます



研修医と指導医の顔の見える関係



重層屋根瓦方式の指導

2012年度より山梨県ドクターヘリが中央
病院を基地に運航されています。



主役は研修医 自由選択カリキュラム

2年間のうち、13ヶ月間は研修科目を選択できます。2年次必修の地域医療1ヶ月間についても、研修する病院は山梨県内の地域中核病院6病院から自由に選択していただけます。研修医自身が望む研修を提供する、これが当プログラムの大原則です。

充実した高度医療の実践

県がん診療連携拠点病院、救命救急センター、総合周産期母子医療センターなど、高度医療施設が整っています。しかも、それらの施設が高度医療を実践し、確たる成果をあげています。当院の総合周産期母子医療センターが活動を始めてから、山梨県の周産期死亡率、新生児死亡率は、目覚ましく改善し、現在は全国トップクラスの治療成績をおさめています。

研修医と指導医の顔の見える関係

当院には、平成30年4月1日現在、117名の正規職員医師、32名の後期研修医、36名の初期研修医が勤務しています。研修病院としては、丁度いい規模だと考えています。これ以上大きいと、お互いに面識のない者が出てきてしまいます。指導医にとっては、研修医の顔と名前が一致しています。研修医にとっても、どの医師にコンサルトすればいいか把握できます。さらに、メンター制度により、研修医に2年間通して気軽に相談に乗ってもらう担任医師を1人ずつ個別に指名しています。

重層屋根瓦方式の指導

一番頼りがいのある指導医って誰でしょうか。年長の教授や部長より、すぐ身近な先輩である専修医や研修医の方が頼もしく見えることも多いはず。自分が知りたいことを一番よく知っているのは、1年前自分と同じ立場だった先輩なのです。中央病院も北病院も、院内では専修医、研修医はみんな一緒の大部屋住まい。ちょっと分からないことは、すぐ聞くことができます。屋根瓦が1枚ずつ重なっているように先輩から後輩へ代々教育を引き継ぐ伝統が息づいています。

Common disease 主体の豊富な症例

山梨県最大の基幹病院である中央病院、および中核精神病院である北病院には、多くの患者さんが受診されます。市中病院である性格上、臨床の主体は、Common diseaseです。診療する機会の多い疾患をしっかりと研修する。臨床医としての基礎を築くためには、重要なことと考えています。

初期～3次救急医療の充実

救命救急センター研修が、1年次に3ヶ月間（このうち2週間は北病院で精神科基礎研修）必修です。年間2,000例以上の3次救急症例に対して日夜救命医療を展開している救急専門スタッフの一員として研修します。また、甲府地区の時間外診療当番病院である中央病院には、4日に1回程度の当番日に初期～2次救急患者さんが多数、夜通し訪れてきます。救急科専門医による現場での直接指導のもと、研修医も時間外プライマリケア診療を2年間通して経験します。患者さんへのファーストタッチは研修医が行い、研修医自身で診察を開始します。どんな救急患者さんでも断らず、まず自分で診る。そんな医師を育成するプログラムです。